

## 山手貨物線作業員触車死亡事故から 25 年

### 慰霊と安全風土の再確立を誓う！



JR総連は、山手貨物線作業員触車死亡事故（山貨事故）から25年を迎えた2月21日、山貨事故の現地に立ち、この痛ましい事故を決して忘れることなく、たたかい続けていくことをお亡くなりになられた御霊に誓いました。

現在、東北新幹線・上野～大宮駅間で発生した停電事故および感電事故をはじめ、山貨事故の教訓を忘れたかのような重大事故が多発しています。

私たちは、二度とこのような痛ましい事故を起こさせことがないように、安全風土を再確立しなければなりません。そのためにも、恐れることなく職場から私たちの声を発信し続けていこう！



### 山手貨物線作業員触車死亡事故とは・・・

1999年2月21日午前0時14分。山手貨物線・大崎～恵比寿駅間で工事の準備作業をおこなうため、作業員8名が線路内に立ち入っていたところに、臨時列車が進入。作業員5名が触車し、死亡しました。

原因は、作業責任者が最終列車が通過して以降、当該の臨時列車は運行されないと思い込み、作業を開始したためです。

JR 東労組は、緊急対策として線路内における作業を全面中止とし、安全作業確立にむけた議論を会社とおこない、線路近接作業については、線路閉鎖を基本とする作業体制を確立しました。

